

工業合金三芳 増設熱処理炉2基が稼働 省エネ型機種など導入

銅合金の鋳造品・鍛造品などを製造する三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏)は増設に向けて準備を進めてきた熱処理炉2基について、今月に入って相次いで火入れし稼働させた。熱処理炉は狙った



今月火入れした熱交換器搭載・省エネタイプの熱処理炉

銅合金の鋳造品・鍛造品などを製造する三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏)は増設に向けて準備を進めてきた熱処理炉2基について、今月に入って相次いで火入れし稼働させた。熱処理炉は狙った

る。使用エネルギーを大幅削減した機種と、製品特性向上にも寄与する機種を1基ずつ増やした。増設した2基は合金組織を均一化するための溶体化処理用の設備。省エネタイプの機種はナリタテクノ社製で、熱交換器で排熱を回収・再利用する。回収した排熱で熱した約200度の空気で炉内を温めることで、稼働温度まで昇温するためのエネルギーを抑えられる。従来型の設備と比較して、約2割の省エネが可能となっている。導入により自社として環境負荷を低減す

るほか、顧客が進めるサプライチェーン全体としての低炭素化にも寄与できる。併せてコストダウンにもつながる。萩野社長は熱交換器による省エネ機能について「効果が高ければ他の熱処理炉への導入も検討していきたい」と話している。製品特性の向上にも貢献する機種はテーエヌケー社製。炉から冷却水槽への搬送をエレベーターなどで自動化することで、急冷までの時間を縮められることから、製品強度などにも寄与する。